

「くらしの作文」ネット配信1年

東海テレビHPで庄野アナウンサー

音読の輪地域で仲間

本紙生活面に掲載されている「くらしの作文」の音読のインターネットを通じた配信が三十日で一年となる。東海テレビの庄野俊哉アナウンサー(金)が「声を出す機会を増やして、社会の雰囲気をも明るく」と取り組んできた活動は、各地で地域づくりや健康維持などに役立てられ始めている。

(寺西雅広)

「音声に合わせて読んでみましょう」。名古屋市守山区にあるホールの会議室。同区社会福祉協議会の職員が、こう呼び掛けた。スマートフォンを操作すると、庄野さんの音読が流れる。その声に合わせて、集まった十二人の高齢男性たちが手元の作文を読み上げる。ゆっくり大きな声で読む人もいれば、テンポ良く読む人も。

「毎日続けるのは大変だったけど、いろんな文章に出合えて勉強になった」。庄野さんはこの一年を振り返る。

始めたのは昨夏に会社のCSR(企業の社会的責任)推進員になったのがきっかけ。社会貢献を考える中で、「コミュニケーション」が活発な社会になれば、と声を出す音読に着目した。

この日は、メンバー有志によるバンドの練習後。自宅でも音読しているという白田和幸さん(左)は「声を出すと気分がすっきりする」とほほ笑む。竹内敏晴さん(右)も「音読すると文章が頭に入ってきた」とうなずいた。

同協議会の吉岡弘事務局長は「高齢男性は家にこもりがち。手軽にできる音読を通じて、外に出ることになれば」と孤立防止の効果も期待。今後も音読講座を開く予定で、「音読を区全体に広めていきたい」と話す。

高齢者、商店街など講座も

「くらしの作文」の音読のインターネット配信が三十日で一年となる。東海テレビの庄野俊哉アナウンサー(金)が「声を出す機会を増やして、社会の雰囲気をも明るく」と取り組んできた活動は、各地で地域づくりや健康維持などに役立てられ始めている。

始めたのは昨夏に会社のCSR(企業の社会的責任)推進員になったのがきっかけ。社会貢献を考える中で、「コミュニケーション」が活発な社会になれば、と声を出す音読に着目した。

この日は、メンバー有志によるバンドの練習後。自宅でも音読しているという白田和幸さん(左)は「声を出すと気分がすっきりする」とほほ笑む。竹内敏晴さん(右)も「音読すると文章が頭に入ってきた」とうなずいた。

同協議会の吉岡弘事務局長は「高齢男性は家にこもりがち。手軽にできる音読を通じて、外に出ることになれば」と孤立防止の効果も期待。今後も音読講座を開く予定で、「音読を区全体に広めていきたい」と話す。

「くらしの作文」の音読のインターネット配信が三十日で一年となる。東海テレビの庄野俊哉アナウンサー(金)が「声を出す機会を増やして、社会の雰囲気をも明るく」と取り組んできた活動は、各地で地域づくりや健康維持などに役立てられ始めている。



スマホの庄野さんの声に合わせて、くらしの作文を読み上げる「びんころ男会」のメンバー＝名古屋市守山区で

庄野さん 若い層にも広めたい



「くらしの作文」の音読のインターネット配信が三十日で一年となる。東海テレビの庄野俊哉アナウンサー(金)が「声を出す機会を増やして、社会の雰囲気をも明るく」と取り組んできた活動は、各地で地域づくりや健康維持などに役立てられ始めている。

「毎日続けるのは大変だったけど、いろんな文章に出合えて勉強になった」。庄野さんはこの一年を振り返る。



「話せる商店街」を目指す五藤千晴さん(左)＝名古屋市瑞穂区で

庄野さんによる音読が「できるまで」の動画を中日ウェブでご覧いただけます。



「くらしの作文」の音読のインターネット配信が三十日で一年となる。東海テレビの庄野俊哉アナウンサー(金)が「声を出す機会を増やして、社会の雰囲気をも明るく」と取り組んできた活動は、各地で地域づくりや健康維持などに役立てられ始めている。